東日本大震災 10年

オンラインで心つなぐ

碁石・交流コンサート

大船渡

大船渡市の碁石地区復興まちづくり協議会（大和田東江会長）など主催の「碁石・心の交流とコンサート」は20日、オンラインで各地を結んで開かれた。歌でつながり、全国の音楽家らが東日本大震災から10年を迎えた被災地住民の心の復興を後押しした。

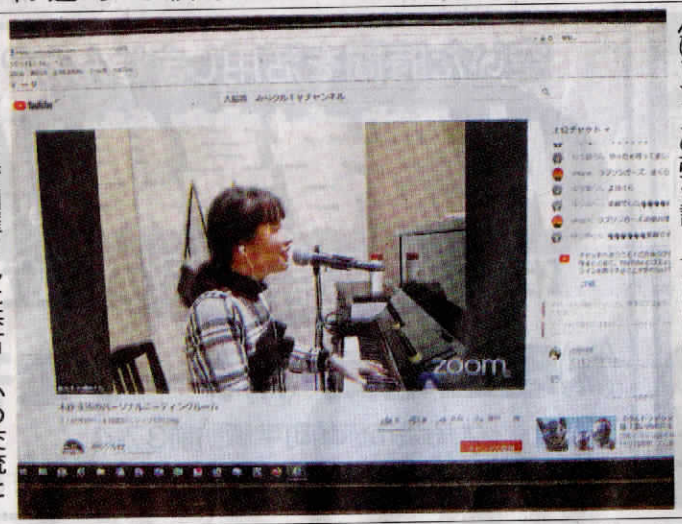
テレビ会議システム「ズーム」と動画投稿サイト「ユーチューブ」を活用し、全国に配信した。

宮城県気仙沼市の音楽ユニット「LOVE SONGERS（ラブソンガーズ）」、静岡県沼津市出身で全盲のシンガー・ソングライター、大石亜矢子さん、神奈川県平塚市在住で平成26年から「碁石」の地名を生かした地域の復興、振興につなげようと「囲碁まつり」開催の実行委員長などとして、大船渡市の復興支援を続ける木谷正道さん（73）もメンバーの「心の唄バンド」などが出演した。

心の唄バンドは『遥かなる夢に』、大石さんはピアノの弾き語りで『どきどきっ』などの曲を画面を通じ、情感込めて届けた。

ズームで参加した大和田会長は「震災から10年がたち、（『遥かなる夢に』の）『振り向いたらそこに君がいるんだ』という歌詞をかみしめた。歌の支援はありがたい。われわれのそばにいてくれる人がいることが最大の支援だ」と感謝した。

同コンサートは6回目。新型コロナウイルス対策のため、今回はオンライン開催とした。木谷さんは「私たちができることとして音楽や囲碁を通じて心を寄せてきた。こうして歌やおしゃべりを通じ、みんなでつながりながら地域の課題を解決する力をつくっていきたい」と呼びかけた。



オンラインで開催された碁石・心の交流とコンサート（電子新聞に別写真あり）

腹折をはンのていら順大さのマ宮追の駅の一災伝触れ版の国語手版、。中種類合わし、現在いく。また、県内外の観光施設や交通機関から希望があれば、検討も応じるとしている。

で結ばれている台湾、上海からの観光客の利用も見据えて作成したという。

小学生用は、一般用と記載する中身はほぼ同じだが、デザインを変えて文字を大きくし、ふりがなもつけて分かりやすい形にして掲載。学習に活用できるよう、学校や家の近くで起きそうな自然災害、家の近くの避難所などについて書き込めたちが調べて書き込める欄も設けた。

新しいリーフレットは、館内で来館者に配布。県内の震災伝承施設にも配架を依頼し、誘客促進も図っていく。また、県内外のルス宿泊施設や交通休し機関から希望があれば、検討も応じると花巻期便

東京新聞（2021年3月23日（火））